

はばむことは、これは目に見えておるわけですから、ともかく道路、宅地、公共施設等は、一体的にやっていた方がいいというふうなことです。……

そこで、範囲は広い方がいいと、こう言われたわけでありすけれども、大体、じゃあ、その広い範囲はどのくらいが広い範囲であるのか、その辺をお尋ねしたいと思つす。市長に就任なさられたときに、比較的南部の方に空き地があると、あれはたしか十四、五ヘクタールではないかと——十三、四ヘクタールくらいありますけれども、それはどうかと、あるはもう少し広い方がいいとか、その辺も、一つの構想と申しますか、ビジョンと申しますか、お尋ねしたいと思つす。

いずれにしても、相当、私、金がかかると思つすし、それから交渉というものはものすごく大変だと思つすけれども、いわゆる価値というものが上がると、このだけは、これは事実ですから、その辺についても、ひとつ細かに御説明をいたしたいと思います。

また次に、モノレール問題でありますけれども、答弁、具体的にいたしたというのか、抽象的にいたしたというのか、一生懸命促進方がんばるぞというふうな意味では、具体的というふうなことになるかと思つてあります。

けれども、なに東京都の関係局の幹部職員に強く要望したという、もしそれが一つの仮に切り札であつたとしたならば、じゃあ強く要望したけれどもだつた、できなかったという、こういう論理もあるわけですね。一体、その辺どういふんはいいのかという点、決意と申しますか、その辺を伺いたいです。

しかも、新交通システムについての中間報告では、福生市は通らない、計画案になつてゐると。まあ、それは事実でしょう。しかし、その理由といたしましては横田飛行場があるからと——じゃあ全く私は納得できない。横田飛行場があるから、横田飛行場のせいのゆえに、福生市がかわめて重要なモノレールが通らない、ということでは、これは私は納得できない。と言うのはなぜかと言つと、大体、この横田飛行場なるものは、われわれが、じゃあ政府を拝み倒してこの所に横田飛行場を設置してくださないと、頼んだよりなことであるならば、これはいさ知らず、そうじゃないと私は思つてゐます。狭い狭い福生の土地でありまして、この貴重な貴重な福生の土地で、しかも三分の一をですす、いわば横田飛行場に占領されているわけです。しかし、われわれは国のために、国策として愛国心のゆえをもって置かしてやっていると、こういう認識だと私は思つてゐる。

です。福生市長を初めとして、福生市民の理解の上に横田飛行場というのは置かしてやってみるんだと、まあこういうことじゃあな、かと思ひます。確かに十億、四たらずの助成交付金をもらっているかも知れませんが、これは考えようによっては大金です。しかしながら考えによっては、はした金とも言えるわけです。たとえてみますれば、お隣りさんの羽村で、あそこ大体同じく、この地所を工場誘致して、そしてじゃあどのくらい、この市税を上げているかと言うと、これは、いわゆる福生は交付団体であつて、羽村は不交付団体である、いわゆる豊かな羽村町であると、そういつたようなことから考え合せてみましても、これはやはりどう見ても、何て言うんですか、横田基地というものは、それゆえにということは納得できな、と。決して私は横田基地を否定するものじゃあございせん。市長派でございすから。しかしアメリカさんの考えでや、てゐることは日本のためにいい、そう思っているんです。

だがしかし、未来の福生が、モノレールが通るか通らないかによつて、この盛衰が決定するであろうとしたならば、それが横田基地のゆゑに陸の孤島となつて、文字どおり衰微してしまふという事になつたとしたならば、これ

は、やはり大問題である。

福生駅西口再開発どころではなくてしまふんじやないかと、こんなふうな気もするわけです。

むしろ福生市が国策に沿つた日本

全国民のために、いわゆる犠牲者であると、そういう認識、スケープゴートとい

ふ場で、直接基地が起因しているところであるならば、基地を利用して司

令官にお願いするとか、あるはまた、市長と司令官ともどもで、ともかく

防衛庁や運輸省、その辺にかけ合つて働くべきじゃあな、かというふうな気

がするわけです。ぜひ、そう私はしたらいんじやないかと思ひます。市長として

お願いしたらいいんじやないかと思ひます。市町村というものは五万とあるわけ

です。だから政府に対する説得力というものは、やはり私は余り強くないと思ひ

ます。横浜市とか、あるは名古屋市とか、いろいろ、いわゆるマンモス都市はい

知らず、五万とあるわけですよ。しかしながら基地というやつは、これは日本では

沖縄を入れて三つしかない。これはやはり、いざ有事の場合には、この横田基

地は、これはやはり存在価値たるや非常に大きなものです。ですから、そういう

意味での政府に対する説得力、これは絶対にパワーがある。ですから、それは

やはり、何ですか、言葉は悪いかも知れませんが、「災いを転じて福と

なす」と言いますが、そういうような意味で、私は利用すべきじゃないかと思うんです。

たとえば、日米の連絡協議会ですか、たとえばこの問題を提起して、そこでデイスカッションしてもらうとか、そういうことも私は必要だし、それでも何でも、もし仮にできなかったならば、たとえば市長が先頭に立って、基地を追いつくような市民運動を繰り広げる。そういう、いわば――私は基地賛成者ですよ。ですけれども、そういう、いわゆる何て言いますか――強い姿勢と申しますか、そういうようなものが必要であると。要するに、モノレールがたとえば西多摩郡に入るならば、福生市というのは西多摩郡の玄関口なんだから、福生市を通さなければいけない、福生市が入らなければいけない、くらの、いわば強い姿勢が私は必要だと思うんです。

これは確かに金もかかりまじやう、これは実際問題として。これはよくわかります。しかし、予算の問題は、たとえば仮に防衛施設庁に全部肩がわりさせるとか、これも私は、三分の一の土地というものを一億二千万人のために提供しているんですから、五万人のためにじゃなくて、一億二千万人の

ために提供しているんですから、これはそれだけの、やはり説得力がある、そういうふうに思うんですね。たとえば仮に岩国が、この五つの飛行場の一つであると仮にするならば、これかやほう、いわゆる六千億円も国税を導入して海の中に基地をつくらうと、こういうふうな、これはまあでかいことですよ、六千億と言えは一年の利息だけで四、五百億。一年にわれわれがもうるのは、十億ですよ、九億六千万ですよ。そこからいきますと、この六千億というのは膨大なんですけど、そういう意味では、負けず劣らず、この横田基地というのは、非常に重要なものなんですから、そのくらのことは私はやってもいいんじゃないかと思うんです。いわば可能性の追求ですから、やってみなければわからないわけですから、やるべきじゃないかというふうな、私は気がするんです。いずれにいたしましても、そういうふうな件につきましても、先ほど市長さんが言われましたように、西多摩地域都市モノレール建設促進協議会ですが、こういう土俵ももちろん必要です。これでもやっぱりデイスカッションをして、そういう福生という所の置かされているという地の利を得た意味でのルートと、その何で言うんですか、これにも活用できないようない、そういう

ものが福生にあるんですから、そう、うとこから両面で、この問題について推し進めていただくような、そういうふうなお気持ちがあるか。御見解があるか、その辺をひとつお尋ねしたいと思うんです。

それから三番になるわけですが、これは最後でありますけれども、拝島駅周辺開発構想、このうとこですけれども、これも市長さんが、大変、その答弁、深い認識を持っておられると、私、そう理解しましたけれども……。私は福生の一番端、ここに住んでるものですから、そう、うとこ点においては非常に感謝をする次第であります。四月の八日、ちゅうど二カ月前に睦橋が開通したと。そして、その私が問題を提起いたしました二・三号線、これも市長としては前向きに、いわば検討したと、この私は解釈しております。そこへもってきて、その二・三号線を線的整備だけじゃあなくして、面的整備も考える方がベターであるから、というふうなお考え、つまり面的整備もやるというふうに私は理解した。しかればそれの、いわば延長、何て言いますか、階段をもう一段登るとすればその隣ですね、いわば拝島周辺というのは隣でありますから、それも

やっていたらいいと。

この拝島という所は、確かにあそこは昭島市のエリアですけれども、しかしあそこは確かに福生市と昭島市の行政区にまたがっている。先ほど申し上げましたけれども、くどいようですが、市街地は一体であると。たまにそこに行政境があると、このうとこ認識で、もはや私は、ですから、そういう意味から言えば、福生は福生であるとか、あるいは昭島は昭島であるとか、そういう認識に立て、物事を考えなくても、この際は、これはいいんじゃないかという気がするんです。たとえば、あそこ、五日市の隣の川口村とそれから向こうのたとえば柚木村とが一緒になつて八王子市民になつたなんていうことは、われわれにどうと理解できませんよ。五十年前の人は同じ市民税を払うなんてことは理解できない。そういう意味においては、あの福生が大きくなって福生市になるのか、あるいは三多摩市になるのか、西多摩市になるのか、その辺はわかりませんが、そういう次元でものを考えずに、この辺については、ひとつ昭島市と手を携えて考えていた方がいい。そして拝島駅周辺の問題を解決していただきたいと。

先ほど市長も昭島市長との話し合いを試みていた、ということ言われたわけですが、いづろ話し合いをしていたのか、これは何月何日にやってくれと、こういうふうな私は言うわけじゃありませんよ。鈴木さんだって、はるばる海を越えてベルサイユまで行ったわけですから、車で三分か五分ですから、拝島サミットやるにしてもですね。そういう意味からしても、やはり何て言うか、非常にシビアにむずかしい資料を校正して、そして会談すると言っているじゃなくて、もっとラフな形で、いわゆるお互いに話し合ひ、コンセンサスを得るといふふうな、やはりそういうことをやっていたか、い、やれるんじゃないかと、私そう思うんですが、その辺についても抽象的に結構でありますから御答弁を願います。

非常に長たらくなりましたけれども、要約いたしますと、奥多摩街道拡幅促進方の要望ということですが、福生市が大体察知している範囲内において、東京都の具体的な見解についてお尋ねしたい。また、何て言いますか、陳情の効用と言った方がいいのか、そう、うふふふ、な、これはサラッと結構ですから、それもちゃんと書いていただけますか。

それからまた、面的整備についてですけど、この十五ヘクタールがいいのか、三十ヘクタールがいいのか、あるいは六十ヘクタールがいいのか、その辺についてお考えがあるのかと思いますので、その辺も教えていただきたいと思います。できますれば、どのくらい費用がかかる、始めたら大体何年計画、たとえば五年計画、十年計画ですが、よくわかりませんけれども、どのくらいかかるのか、というふうな、その辺もちゃんと教えていただきたいと思います。

それから、モノレール問題ですが、これ、さっきの話の要約にないですが、早速にも基地の司令官と相談をしていたので、この問題に対して対処されるような対策を練るような考え方を持っておるのかどうかと、あるいはまた、日米連絡協議会に提起するような考え方があのかどうか。何があってもモノレールは引くにと、そう、決意があるのかどうかと、むしろ旗でも立てて市民大会を開く決意があるのかどうかと。いやそれほどのことはないんだという認識なら、またそれでも結構ですけども、その辺の、いわばお考え方もお尋ねしたい。

それからまた、拝島駅周辺開発構想についてですけども、拝島

サミット、これはいつごろやっているにけるのかと。

この三点、まあ四点、五点になりますか、その辺をひとつお尋ねをしたいと思います。再質問を終わります。

○議長(末次性男君) 、れより十一時二十五分まで休憩いたします。

午前十一時十二分 休憩

午前十一時二十五分 開議

○議長(末次性男君) 休憩前に引き続き、会議を開きます。

質問を続行いたします。

○市長(田村匡雄君) 自席からお許しをいただきます。石川議員さんの御質問に対してお答えいたします。

奥多摩街道の件、要するに二・二一の件と、それから二・二三の件でございますけれども、どのように陳情して、いづろ、ある程度見通しはどうかというふうな御質問だと思いますけれども、実は、あらゆる機会を通じて、奥多摩街道二・二一の關係につきまして、

先ほど申し上げたとおり、五十五年度に陳情書等を、東京都を通じて出しております。それから、その件につきまして、また先ほど申し上げたとおり、石川代議士を通じて建設省の方の補助金等の關係がござりますので、建設省の方へも、直接石川代議士に行っていたか、陳情等としておるわけでございますけれども、先ほど申し上げたとおり、羽村町内で、時間的に非常にかかっているというふうなことで、工事がおくられているというふうなことで、勢い、こちらの二・二一の整備がおくれているというところ、私も直接、これは東京都の局長から伺っております。それから、その件につきまして、時間的に言うか、いづろでござるかというふうなことでござりますけれども、一路線は、東京都においても建設省においても一カ所ずつ工事をやていくと、要するに二カ所も三カ所も一緒にできないので、できるだけ道路を通すというところ、それから整備をするというところ、なっているようにござります。先ほど申し上げた羽村からの幹線ができれば、こちらの方に手をつけないというふうなことでござります。それでは実際にいづろかというところですが、私どもの見通しといたしますと、六十年、ある

は過ぎかなというふうに感じております。

それから、二・三の関係でございますけれども、これは先ほど申し上げたとおり、区画整理の中へ取り込んでいけば一番いい条件になるわけでござい
ますけれども、一応、この関係も都の方へ、これは西多摩建設事務所を
通じまして、所長ともお会いいたしまして、何回もこれも陳情して、書類
も提出してございます。この件につきましては、建設局長にお会いいた
しまして、いろいろと御相談申し上げ、また関係の都議会議員とか、こ
うにもお願いはしてございます。これはいつというものは、はっきりい
ておりませんけれども、事あるごとにこの件については、また今後とも陳
情していくつもりでございます。

それから、面的整備の関係の数字的な関係については、部長から
後ほど説明をいたさせていただきます。

それから、石川議員さんとおっしゃるとおり、モノレールの関係でござい
ますけれども、先ほど申し上げた中間発表には、これは載っております
ですけれども、いつも私が申し上げておるとおり、福生の行政では横田基地

というものを考えない限り、あるいは横田基地があるとか、そういったことを考
えない限り、行政は非常にできないというところでございまして、あらゆる阻
害になるのが横田基地だというふうに考えておるわけでございすけれども、
こういった面からいたしまして、今後、基地協議会とか、あるいは場合によ
りましてならば横田基地司令官、要するに先ほど石川議員さんが
おっしゃるようお願いしまして、日米合同委員会の方へ出していただ
くとか、そういったことも考えておるわけでございすけれども、現在の司令
官が今月いっぱい交代になりますので、また新任の司令官とお会い
いたしました。時機を見て司令官ともお話しし、そういったことに協力し
ていただけるならば、まあいただければしゅうがなんですけれども、そのよ
うに時機を見て話をしてみたいと思っております。そのほかにも、私
ども、できる範囲のこと、要するにそういったことでモノレールの構想につ
いても、今後福生市に入ってくるように努力してみたいと思っております。

それから拝島駅の区画整理、並びにこの開発の件でございすけれ

に試算をいたします。

それから、あと、年度でございますが、知事の認可が、大体五年を基準として降りますが、実際には七、八年は最低でもかかるんではないかというふうに思います。この面積にもよりますが、このくらいやりますと七、八年はかかるんではないかと。そうしますと、大体年度別に支出するのは、大体四億四千万ではないかというふうに試算いたします。

これらの事業はまた別といたしても、これから五十八年から六十年までの実施計画のローリング等をするわけでございますが、まず調査が先にきませんといけませんので、これから、もしできることなら調査費を計上していくような検討も、今後してまいりたいと思います。非常に区画整理も最近むずかしくなっておりますが、こういうことで調査をして、意識調査、いろいろあると思いますが、そういうものとして今後検討していければと思っておりますので、よろしく願っています。

○議長（末次性男君） 質問者に申し上げますが、時間、あと十三分くらいでございます。

○一番（石川慶一郎君）

ただいま、御答弁ありがとうございました。よくわかったと言えはよくわかったし、よくわからな、と言えはよくわからな、……大体わかりました。

この一番ですけれども、これは言わゆる言わんとすることは、一路線一予算と、こういうことで理解していいのだと思いますが、六十年過ぎごろおやりになると。で、なくなるかも知れない、ということでもあります。これはともかく、いずれにしても、相手は福生市というよりも、東京都であり国であるわけですから、具体的にどうこうというよりは、市長さんの立場としても、もちろん言えないわけでしょうし、ですから、ともかく精力的にこの問題についてぶつけていただきたいと、こういうふうなことを要望するということになろうかと思えます。

また、いわゆる二二三号線ですが、なかなか、これもはっきりしたことは言えないと思います。内田部長さんが言われた六十億円という費用ですね、これは三十ヘクタールですが、平方メートル二万四〇〇〇大変な費用であるという、これはよくわかるんです。これも、しかしですね、長期的に見て、やはり都市計画

というものが、その完成率が高ければ高いほど、その福生市というものの価値が上がるわけでありますから、その辺をいって、四億、五億というのは大金でありますけれども、百分の四であり、百分の五でありますから、一年間で言えば、一般会計の……。そういふふうなことで、いってぜひお願いしたいと思ひます。

さっきの、均衡の取れた都市基盤整備という事で、福生が——福生と言いますが、五日市街道より北部が三十一で、そして南部が六〇という、これはかなり偏重していると言うか、いわゆる均衡の取れた区画整理ではないと数値で出ているわけですから、これはやはり、この辺も、この陸橋の開通を契機として、都市基盤整備は、まず積極的に重点的にやっていたと、福生市の立場としては、その地域を重点的にやっていたと、このううことであらうと、そうお願いしたいと、かように思います。

それで、一年に四億とか五億とかいう歳出は、これは大変なものというふうに私は思ひますけれども、たとえば、この市の市税ですか、福生が全体の構成率の三十七・八ですか、去年が三十四・五ですか、二十六市の平均が

五〇・六ですか。武蔵野が七％、この武蔵野という所は、福生に比べると比べものにならないほど市税が高い。倍以上高い。これはなぜ高いのか。それは市民税を払う人が大ぜいいるから高いと言えはそれまでですけど、しかし、市民税を払う人間がなせ多いかと言くと、これはやはり交通の便がいいとか、あるいは住みよとか、都心に近いか、このうう理由であらうかと思ひます。しかし、そういう意味においては、やはり都市基盤整備というものが確立すれば、そうすれば非常にさういふ意味についてのシェアも高くなるなどという事、これはやはり市長さんとしても、福生市の経営に非常に楽である——このううことでありますから。

また、さっきちょっと触れました、いわゆる陳情の効用というものは、答弁にいたしませんでしたが、いたたなくても結構でありますけれども、やはり私は陳情の効用という事を、やはり重視すべきではないかと思ひます。要するに、仮に一路線一予算というものが、一つの大前提であると、一つのバターンである。しかしながら場合によっては一路線一予算が崩れる、こともある。不可能ではないかも知れない。あるいはその一予算の方を増額して併用してや